

科目名	育成支援看護学特論Ⅰ (Advanced Study of Developmental Child Nursing I)			科目コード	M205
選択区分	選択	履修時期	1 前	単位数 (時間)	2 単位 (30時間)
担当教員	豊田 ゆかり・枝川 千鶴子・仲渡 江美			関連DP	看①④⑤⑥
授業概要	認知・精神分析理論を理解し、小児と家族をケアできるための看護に活用できる理論を教授する。				
授業目標	子供の成長や発達及び家族を含めた環境を理解し、その知識を基盤として、子供特有の健康問題を解決するために必要な理論を学習する。特に、子供 (個人)・家族・社会の関連性を視野に入れた学習を行う中で、理論に基づいたアセスメント力を高める。				

授業内容とスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス	ガイダンス これからの講義内容と学習の方法	豊田ゆかり
2	発達理論 (1)	認知発達理論について	仲渡江美
3	発達理論 (2)	精神分析理論について	
4	子どもの発達とその障がい	ことばと認知の発達を支える基盤と発達障害	
5	親として発達	子どもの精神発達を支える家族の役割 －家族システム論の立場から－	
6	子供の権利・倫理 1	子供の権利と看護	枝川千鶴子
7	子供の権利・倫理 2	子供の権利と看護 －小児看護における倫理上の課題－	
8	子供の包括的理解	ICF の臨床的活用の意義	
9	小児看護の関係する重要概念	子供と家族に必要なケアを実践するための重要概念	豊田ゆかり
10	小児看護とヘルスプロモーション	子供と家族のヘルスプロモーションについて	
11	ヘルスプロモーションの研究	子供と家族のヘルスプロモーションに関する研究 －看護援助、研究方法について－	
12	ソーシャルサポート	子供と家族のソーシャルサポートについて －国・自治体の方針・制度－	
13	理論理解	子供と家族のストレングルモデルに関する研究の動向	
14	理論活用 1	子供と家族に必要な支援を明らかにするアセスメント枠組み －理論の活用－	
15	理論活用 2	子供と家族に関連する看護理論の臨床的活用の意義と意味	
成績評価方法	プレゼンテーション (30%) 課題レポート (70%)、をもとに総合的に評価する。		
必携あるいは参考図書・文献	<p>参考文献</p> <p>①平木典子・柏木恵子：日本の親子，金子書房 ②子安増生・仲真紀子（編）：こころが育つ環境をつくる，新曜社 2014 ③杉山登志郎：発達障害のいま，講談社現代新書〔仲渡担当分〕</p> <p>① 萱間 真美：リカバリー・退院支援・地域連携のための ストレングスマodel実践活用術，医学書院，2016 ②佐藤栄子編：中範囲理論入門（第2版），日総研， ③パトリア・R・アンダーウッド著，南裕子監訳：看護理論の臨床活用，日本看護協会出版会， ④独立行政法人国立特別支援教育総合研究所：特別支援教育における ICF の活用：ジアース出版， ④厚生労働省大臣官房統計情報局編：国際生活機能分類－ICF－CY，厚生統計協会、〔豊田担当分〕</p> <p>①日本小児科学会・日本小児保健協会その他 編集：子育て支援ハンドブック 日本小児医事出版社 ②小児看護領域の看護業務基準：公益社団法人日本看護協会，</p> <p>③ガラティスL.ハステッド，ジェームスH.ハステッド（著）藤村龍子、樽井正義（監訳）：臨床実践のための看護倫理， ④日本小児看護学会 倫理委員会：小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針，〔枝川担当分〕</p>		
授業時間外の学習について	授業開始時に各担当教員から説明する		
関連科目	209 育成支援看護学特論Ⅱ 207 育成支援看護学特論Ⅲ 223 特別研究		
備考			